

岐阜県セラミックス研究所
〒507-0811 多治見市星ヶ台3-11
Tel. 0572-22-5381 / Fax. 0572-25-1163

■ 都市エリア研究成果発表フォーラムを開催しました

当所は平成 20 年度から平成 22 年度の 3 年間に亘り文部科学省地域イノベーションクラスタープログラム（都市エリア型）東濃西部エリア事業「環境調和型セラミックス新産業の創出」に取り組んできました。2 月 2 日（水）に、本事業の成果について研究成果発表フォーラムを開催しました。本フォーラムでは、研究成果の他にパネルディスカッションも行われ、イノベーションシステムの構築と題して 3 年間実施して得られた成果の活用により、今後の地域産業の高度化・活性化を図るための方策について産学官の代表者の間で討論がなされました。

-----環境調和型セラミックス新産業の創出事業の概要-----

（目 的） 地域の大学等の技術シーズを参加企業（ニーズ）に技術移転し事業化を促進することを目的に産学官連携により、高付加価値化製品の開発を図り、陶磁器ならびにセラミックス産業の活性化・高度化を目指す。

（中核機関）（財）岐阜県研究開発財団

（参加機関）名古屋工業大学セラミックス基盤工学研究センター、岐阜県セラミックス研究所（ともに多治見市）など

10 の大学・研究機関、および東濃西部地域を中心とした 30 企業

■ 東濃四試験研究機関協議会と名古屋工業大学セラミックス基盤工学研究センターによる成果発表会を開催

3 月 2 日（水）に、県セラミックス研究所をはじめとする東濃地域の 4 つの試験研究機関からなる東濃四試験研究機関協議会と名古屋工業大学セラミックス基盤工学研究センターの成果発表会を瑞浪市総合文化センターで開催しました。

研究者や陶磁器関連の事業者約 120 人の出席がありました。協議会からは「3D 成型機の特徴」と題して、パソコンを使い、陶磁器食器などを画面上で立体的な仕上がり状況を確認しながら加工することができ、そのデータを切削機や 3D プリンターなどで加工する活用事例を紹介しました。名工大からは、センターの研究活動報告を、特別講演では、(株) T M オフィスの殿村氏から、「儲かる PR 戦略～資金ゼロで、地方からブレイクする方法」と題し、マスコミを使った効果的な広報戦略について講演がありました。



特別講演の様子

■ デザイン協議会による講演会を開催

3月17日、岐阜県陶磁器デザイン協議会（会長：加藤半一郎）が主催する、デザイン講演会を当所講堂において開催しました。講師を学習院大学文学部哲学科（美術史専攻）荒川正明教授にお願いし「京焼の変革者・尾形乾山-デザインから新たな地平を開く-」と題し、地元の製陶業やデザイナー、教育関係者ら約40名の方に参加して頂きました。

荒川先生は、「乾山は当時大量生産が主流の世の中にあって、家業である呉服の文様を参考に描いた器には品があり、多品種少量生産の趣味的な製品で名を馳せた。乾山はチャレンジャーで、彼の生き方は不景気な現在にも通じるのではないか」と話されました。

今回の講演が参加者に好評でしたので、次回講演会（初夏を予定）も荒川先生にお願いする事になりました。講演内容は荒川先生の専門分野である美濃焼の予定です。皆様のご参加をお待ちしております。荒川先生の講演会開催の案内は、岐阜県陶磁器デザイン協議会連絡網、または、岐阜県陶磁器工業協同組合連合会よりご案内いたします。

■ ぎふフラワーフェアに陶磁器製ポットを展示

3月12日、13日にイオン各務原 1階 サニーコートで「ぎふフラワーフェア」が開催されました。このフェアにおいて、岐阜県農業技術センターの展示コーナーにリサイクル土を用いた花用ポットを展示しました。このポットは、リサイクル土の用途拡大を目指し、平成24年に開催されます「ぎふ清流国体」において岐阜のブランド品をアピールするために開発を行っているものであります。今後、花と陶磁器のコラボレーションを推進させ、国体で全国へ発信していく予定です。



フラワーフェアで展示した陶磁器製ポット